

## 第3回子ども国会 宣言書



### 《前文》

わたしたちは、子どもの意見を社会に反映させてもらうため、第3回子ども国会を開催しました。全国から集まった子どもたちは、二日間、国際、教育について話し合いました。

今回の具体的な議論内容は以下の通りです。

#### <国際>

- ・ マスメディアは戦争をとめられるか
- ・ 本当の国際支援とは？
- ・ 憲法9条改正
- ・ 貧困問題

#### <教育>

- ・ エリート教育ってどうなの？

わたしたちは、これらのテーマの現状や理想について子どもの視点から話し合い、改善案を考えました。さらに、理想を実現するため、どのような行動をとるべきかをアクションプランとして、この宣言書にまとめました。

### 《第3回子ども国会の目的》

世界では、教育を受けたくても受けられない子ども、紛争や貧困により生きてくても生きられない人々がたくさんいます。また、日本にも教育問題や社会制度など、たくさんの課題があります。

このような問題は、国会議員や官僚といった公務員を中心に大人によって議論されることが多いのが現実です。しかし、これらの問題に関係しているのは大人だけではありません。この世の中で生活しているすべての人々に関係するものであり、社会の一員であるわたしたち子どもにとっても大切な問題です。また、子どもと大人が協力してこれらの問題の解決に取り組んでいく必要があります。

子どもたちの意見を社会に反映させてもらう機会をつくり、さらに、子どもと大人が世代を超えて協力できる社会を実現する第一歩となる”対話の場“を設けることを目的に、第3回子ども国会は開催されました。

## 分科会：マスメディアは戦争をとめられるか

参加者名：高橋久美子、石井柚季、上野さくら、海野沙弥佳、正能茉優、服部展知、原口里奈

### ① 現実

- ・ 伝えている情報と伝えていない情報がある。
- ・ 軍によってもたらされる一方的な情報をマスメディアが大きく取り上げることにより、世論が大きく動かされている。
- ・ 今のマスメディアは戦争の原因をつくっているが、戦争という存在を私たちに示してくれる唯一の道でもある。

### ② 理想

- ・ 軍からの情報もマスメディア独自の報道も平等に取り上げ、世論を操作できないような立場であること。
- ・ 真実を人々に伝えることのできる存在であること。
- ・ 100%フェアな報道をすること。
- ・ 戦争の悲惨さを私たちに伝えてくれる存在であること。
- ・ 悪いマスメディアを支持しない体勢があること。

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 学校などの公共の場(人が集まる場)で戦争についての知識を深めるような活動を行ってほしい。
- ・ 有事の情報をもっと流し、国としての考えはどうなのかを積極的に示してほしい。
- ・ スポンサーなしでも成り立つマスメディアをもっとつくってほしい。
- ・ 戦争についての情報をできるだけ国民やマスメディアに公開してほしい。

#### (2) 自分たちにできること

- ・ 真実の需要をつくり、真実を埋めないような体勢をつくる。
- ・ 知りたいと思え、情報を集めること。
- ・ 全ての情報を鵜呑みにするのではなく、きちんと情報を選択する。

## 子ども議員の声

### ① 現実

- ・ ジョンベネちゃん殺人事件で決めつけ報道がされていた。(原口里奈)
- ・ 戦時中の日本では、日本軍の大本営による誇張された情報が国民に広く伝えられ、士気を高めるように工作されていた。(服部展知)
- ・ 誤報が流れてしまう。(上野さくら)

### ② 理想

- ・ 今、世界で起きている戦争、過去に起こった戦争について偏った情報を出さない。(海野沙弥佳)
- ・ マスメディアの良いところ、悪いところを考え、広める。(原口里奈)
- ・ スポンサーなしでも成り立つマスメディアをもっとつくってほしい。(石井柚季)

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 石油やダイヤモンドなど、戦争の原因になる「財」についての情報を安易に流さない。(正能茉優)
- ・ 真実を埋めないような体勢をつくる。(原口里奈)
- ・ 報道規制を廃止する。(原口里奈)

#### (2) 自分たちにできること

- ・ 身近な人に話題を持ちかけてみる。(上野さくら)
- ・ 一つの情報に満足しない。(海野沙弥佳)

- ・ 「PKO 協法力」の報道についての温度差が大きい  
読売新聞→PKO 協法力に賛成。肯定的な姿勢。  
朝日新聞→PKO 協法力に反対。否定的な姿勢。  
毎日新聞→PKO 協法力に中立。世論を求めている。  
⇒三社が同じ“事実”を伝えているはずなのに、方向性が全く違う。  
読む人によっては、同じ“事実”に受けての反応なのに、全く違うものになってしまう。  
<10年ほど前に記事より> (正能茉優)
- ・ 「ベトナム戦争のとき、アメリカのジャーナリストが現地を取材し、アメリカ国内のテレビで悲惨な映像を流した。批判はもちろんあり、国からのストップがかけられたが、ジャーナリストはめげずに事実を流し続けた。その結果、国民は反戦デモを起こし、デモは各地に広まった。そしてアメリカはベトナムから軍を撤退させ、ベトナム戦争はアメリカの敗戦で終わった。」  
このことから、国という権力に屈さず事実を流し続ければ、世論は高まり、戦争を止めることができるはず。(石井柚季)

#### ④ アクションプラン

テーマ:政治的圧力に屈しないマスメディアを支援する

○ マスメディアの正しい在り方や、情報を受け取る上で正しい姿勢を知る。



メディアリテラシーに着目

##### \*何故か

- ・ 情報化社会が進む中で、情報の取捨選択が必要となるため。
- ・ マスメディアに対する柔軟な捉え方が不足しているから。

##### \*範囲

- ・ 全国の公私立の中高において必修科目として普及させる。
- ・ 情報、社会、国語などの科目で取り組む。

##### \*方法

- ・ 情報の授業でリテラシー教育のできる、情報科教員の増員・育成。
- ・ リテラシー教育の1つとして、戦争報道を取り扱う。  
いくつかの国の報道を多面的に見て、比較する。

##### \*結果

- ・ リテラシー教育によって情報を常に確かめる姿勢が養える。  
→圧力による情報操作を無効果にできる。  
→正しい情報を求める国民によって世論が高まり、圧力に屈しない強いマスメディアが形成される。

◎ 政府とマスメディアは常に権力分立の立場にあるべきだ。マスメディアは政治の腐敗を防ぎ、監視する立場である。そのため、政府は政治的圧力や規制を加えるべきではない。プライバシー保護の名の下、報道規制が行われないような法案を求める。

## 分科会:本当の国際支援とは？

参加者名: 岩崎悠介、鯨岡舞、近藤アガサ、中村杏奈、山田茜

### ① 現実

- ・ 中途半端な援助が行われている。
- ・ とりあえずお金を送る、物資を送るなど、上辺だけの援助が行われている。
- ・ 外国の目を気にして援助をしている。
- ・ 本当に必要なところに援助が届いていない。
- ・ 日本が他国へどのような援助を行っているのか、情報が伝わってこない。
- ・ 自分の利益にならないと、後回しにしがちである。
- ・ 格差が広がるばかりである。
- ・ 身近なこととして感じられないため、実感が沸かず、自分の目で見られないから、実体もわからない。
- ・ 募金などをしたときに、どう使われるのか、どう役立っているのかが伝わってこない。
- ・ 現地での人材育成や日本での人材育成の動きは続けてほしい。

### ② 理想

- ・ 目先の利益にとらわれない、長期的な援助により、途上国の自立を目指す。
- ・ 途上国の現状を知ること。
- ・ 途上国の知識が増えるような教育を日本で行う。
- ・ 現地の子どもに対して教育をする。
- ・ 国民一人ひとりが世界の中の1人の人間として考え、議論し、行動すること。
- ・ 各国の得意分野を活かした支援。
- ・ 各国による役割分担と協力。
- ・ 現地の市民の視点から、現地の市民の声を反映させた、現地に根付いた支援。
- ・ 現状を理解している NGO による、本当に必要なものを理解した上での支援。
- ・ 政府や大きな組織による影響力を活かした援助の広がり。
- ・ 人と人がつながっていると感じられるような援助。
- ・ 人口爆発などの今の悪循環を止めるような次世代につながる援助、教育。
- ・ 農業の効率を上げて働き口を提供することにより、子どもたちが学校へ行けて、仕事のなくなった農業従事者が働けるような支援。

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 先生や技術者などの人材派遣・技術協力。
- ・ 支援のために税金をとる。
- ・ ODA などの援助の使い道を明らかにする。
- ・ ホームページなどでの分かりやすい情報開示。
- ・ これまでの支援の見直し。

- ・ 国際支援への関心、知識、経験をもった人を国の機関に配置する。
- ・ 政府にやる気をもってもらう、政府全体の意識改善。
- ・ 公務員試験に支援に関する問題を取り入れる。
- ・ 自衛隊派遣の際に、その賛否だけでなく、支援の内容をもっと国民に明らかにし、議論させるべきだった。
- ・ フェアトレードを広め、そのマークの存在を知ってもらえるようにする。
- ・ 新しい科目にボランティアを取り入れるなどして、ボランティアが日常的になるようにする。
- ・ 途上国との姉妹校提供を行い、生徒同士が手紙交換やテレビ電話による共同授業などで交流できるようにし、先生の交換なども行えるような仕組みをつくる。
- ・ 小学校の頃からの学校のテレビ教育などで途上国の現状を知ってもらい、ボランティアへの意識を高める教育を行う。
- ・ 日本で人材を育成し、現地へ送り返す。
- ・ NGOなど、現地の事情を知った上での援助を行える仕組みを支援し、長い目で気長に考えた、本当に必要なものを届ける援助をできるようにする。

## (2) 自分たちにできること

- ・ 学校でビデオ上映。
- ・ お昼の放送で呼びかける。
- ・ 意識改革
  - “してあげる”のではなく、お互いに助け合うんだという気持ち
  - 自分たちに関係のあることなんだという気持ち
  - 日本は日本だけで成り立っているわけではなくて、食糧輸入などで、いろいろな国に支えられているんだという認識
  - 日本も他国の援助を受けて発展してきたんだという認識
- ・ 募金や支援を当たり前に行えるような雰囲気づくり。

## <民間の団体・企業にしてほしいこと>

- ・ 募金の使い道の報告や、それが役立っているんだと実感が湧くような募金者への報告をする。
- ・ ホワイトバンドなどのキャンペーンによるきっかけづくり。
- ・ 芸能人のチャリティーコンサートなどの活動の活発化。
- ・ 企業のイメージ向上にもつながる国際支援の活発化。
- ・ 民間のメディアを活用した、様々な視点からの情報提供。

## 子ども議員の声

本当の国際支援というものは一言ではいいきれないと思う。今の日本は決して支援をしていないとは言えないけれど、改革すべきことはたくさんあるのが現実なのではないかと思う。ODA でもある程度のお金・物資を与えているが、実際のところどうなっているのかが分からない。政府にだけ改善を求めるのではなく、民間団体・国民自身も意識改革をする必要があると思う。どこかの1つだけが動いても歯車は外れてしまうから、全てが少しずつ動いていくべきだと思う。資金だけでなく、他国の目を気にせずに政府には支援してほしい。特に人材支援は必要だと思う。（鯨岡舞）

本当の国際支援には意識改革が欠かせない。“してあげる”だけではなく“していこう”という同じ仲間としての立場から発展途上国の生活向上を考えていくべきだ。そのために、幼い頃からの教育に発展途上国を身近に感じさせるカリキュラムを取り入れたり、イベントやキャンペーンを通して人々に国際支援への意識を深めてもらうきっかけをつくったりすると良いと思う。（山田茜）

本当の国際支援とは、当たり前かもしれないけれど、本当に必要なものが本当に必要な人へと、「自立」を見据えた上で、されるべきものだと思う。でも実際にはそれが行われていないのだ。支援しっぱなしにより逆効果となっているケースもある。それに対して、もちろん政府に改善してほしいのだが、世論が熱くならないとどうにもならない。この貴重な体験ができた私は少しでもこれを広げたい。（岩崎悠介）

理不尽な理由で苦しむ世界の人々を救いたいといつも思ってきたので、今回改めて国際支援の在り方を考え、とてもためになった。世界を変えることは一人でも大勢でも容易ではないけれど、それでも今からできることを見つけることができた。貧困や格差をなくすには、その場しのぎの対応ではなく、元から正すことが必要だと再確認もした。国際支援を行うとき、歴史の流れを意識し、事の本質を見出しその上でできることを精一杯考える。この大切さを感じた議論ができて良かったと思う。（中村杏奈）

現在の日本の国際支援というのは本当の国際支援になっているのかと考えたとき、私は一応やれているのではないかな？としか考えられなかった。しかし話し合いを深めていくうちに、本当の国際支援になっていない上辺だけの支援を日本は多くしていることがわかった。優れた機械があってもそれを扱うことのできる人がいなければ、それはただの鉄のかたまりとなってしまう。現地へ人を送り教育をすることが大切だと思った。（近藤アガサ）

#### ④ アクションプラン

テーマ：すぐにできる、長期的視点からの国際支援

##### <政府>

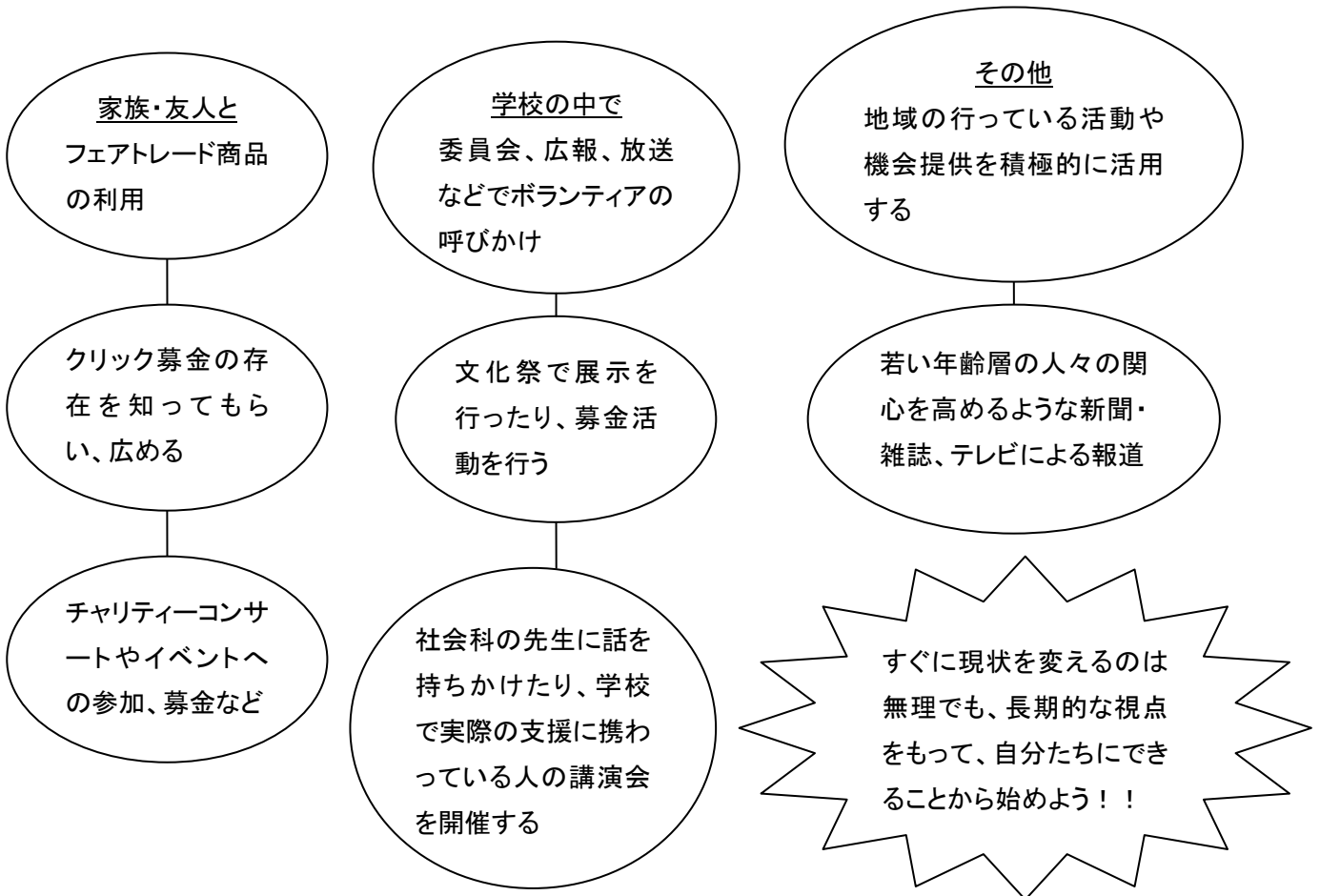
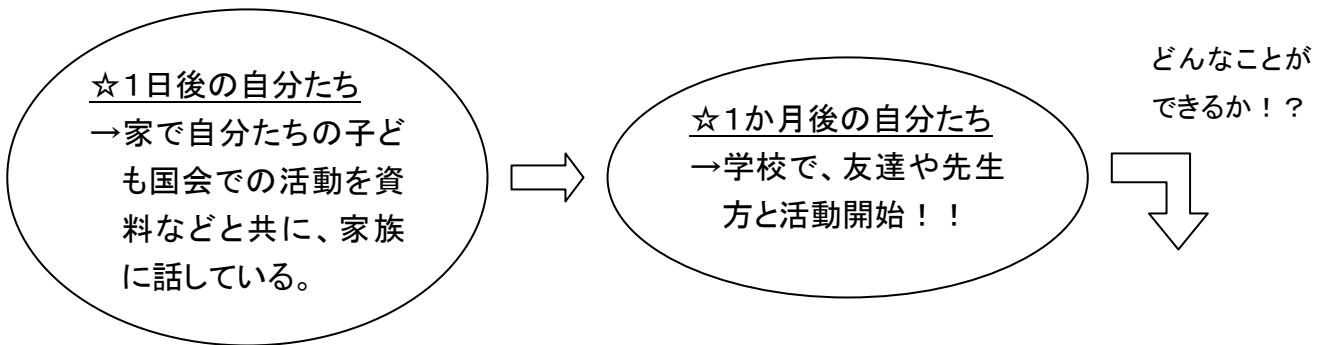
1. 政府内の意識改革と政府による国民の意識改善
2. 政府による人材派遣と技術協力
3. 財政確保をする

##### <自分たち>

1. 自分が家族と一緒に出来ること
2. 自分が学校範囲で出来ること
3. 自分が社会内で出来ること

##### <民間団体>

1. 募金系の活動
2. 社会の関心を集める様なイベント・キャンペーンを行う
3. 企業の参加を促す





## 分科会：憲法9条改正

参加者名：綾春佳、飯島千咲、岡田美也子、須藤里奈、炭谷耕太郎、曾根瑞穂、高柳祐真、  
永田愛佳、渡辺菜美、秋山みほ

### ① 現実

- ・ 原文も改正文も曖昧なものが多く、グレーゾーンが存在している。
- ・ 戦争を知らない人が増えている。(歴史も現状も)
- ・ 北朝鮮や中国などと外交上の不安がある。(歴史観の違い etc...)
- ・ 今変えようとしているのは戦争に向かってしまう方向じゃないだろうか？
- ・ アメリカの言いなりのような気がする。
- ・ 国の態度に一貫性がない。
- ・ 9条と矛盾した自衛隊の存在がある。

### ② 理想

- ・ 日本は戦争しない国であってほしい。
- ・ 過去を踏まえて生きるべき。
- ・ 正しい情報を知るべき。
- ・ 一貫した態度をとるべき。
- ・ 自分を責めて生きる人を生んではいけない。そのための9条。

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 一貫した姿勢で外交に臨んでほしい。
- ・ 中高生は考えを持っているのに、政府に相手にしてもらえない。(マニフェストとかもらえない)
- ・ 目先の有権者だけでなく子どもにも国政に参加するチャンスがほしい。
- ・ 戦争しない国であってほしい。
- ・ 軍事力、武力ではない力で攻められない日本をつくる。  
→外交＝交渉・かけ引きに近づいているけれど、文化や環境問題を共同で取り組むなど、  
交流をすべき。

#### (2) 自分たちにできること

- ・ 自分から知る努力をする。(現地に行って生の声を聞く。)
- ・ タブー視されている話も踏み込んで話す。
- ・ 身近な人に伝える。

## 子ども議員の声

湾岸・イラク戦争で、大きな傷を負ったのは、現地の罪なき民間人だけではない。「劣化ウラン弾で被爆し、我が国に帰って、子どもを持ち、その子どもに障害が出てしまった。」「現地の民間人をたくさん殺しその罪悪感でPTSDになってしまった。」こんな米兵をとんでもない数生み出したのは誰だ。将来を担う、若い世代に、こんな辛い経験をさせる国家を私は国家だとは思わない。日本で同じことが起こらぬようにしているのが日本国憲法第9条だと思う。自らの国民に、苦しすぎる思いをさせないために、9条を大切にしたい。（炭谷耕太郎）

日本国憲法9条は、尊重すべきである。私が自分の視点から見て、日本人は日本に対して不満をもっていることが多いが、日本が戦争をしない国であり続けるというのは、多くの国民が支持する、数少ないものの一つだと思う。9条は、世界平和、日本の平和、人の尊厳を守ると共に、日本と国民の信頼関係を強めている役割があると思う。

国民にも、他国にも支持される日本。私が作っていきたいのはそんな日本だ。（綾春佳）

日本国憲法の9条は、今日本に必要なものだと思う。9条があることで戦争に発展しないという部分もたくさんあると思う。今の私は、戦争や憲法9条について知らないことが多すぎるので、知る努力をしないと、私の知らないところで憲法が改正されてしまうと思い、これからは友人や家族と憲法や政治について話をし、自分と関係のないところで政治が行われることのないようにしようと思う。日本が戦争をしないでいられる国であり続けるように、私たちは知る努力をすべきだと思う。（曾根瑞穂）

戦争というものをできるだけ知るようにする事はとても重要だと思う。現地に行って生を体験しない限り、ほとんど全く何も分からない。でも、1/10000でももっと少なくとも、昔自分の国の人々が犯したこと、そして今、行われている惨状を知れば、昔あったことに関しては罪悪感も生まれ、重い気持ちになってしまうかもしれないけれど、やはり『知る』ということにより「もう絶対に戦争を起してはならない。」「やめるべきだ。」という気持ちに誰でも（少なくとも日本人は）なるのでは、と私は思う。（須藤里奈）

憲法9条を改正する、しない、どうするか、どうあるか、と結論を出すのは、簡単に決めつけることはできないと思う。私も実際、自衛隊の人たちの話や、現状を見たり聞いたりして、国を守るためには自衛力も必要だと思っているが、自衛戦争を行うことで心や体、物が傷つけられることは絶対あってはならないと思う。「戦争は嫌、平和な世界を築き上げたい」と願う人が多いことは確かだ。私たちはこれからも、この思いを大切に、尊重していくべきだと思う。（永田愛佳）

大人たちが話し合っても解決が困難な問題である憲法9条改正について、私たちが結論を出すのは、とても難しいことだと思う。私たちが知らないことは、まだまだたくさんあり、きちんと知るべきだと思う。憲法9条改正は、私たちにとって、これからの日本にとってとても重要なことだ。改正するであれ、しないであれ、私は戦争が絶対に嫌だ。そう願っている人はたくさんいると思う。日本が経験したことを決して忘れてはいけないし、日本は他の国にしてしまったことも忘れてはいけ

ない。一人ひとりが、そういった思いを踏まえた上で、憲法改正に臨むべきだろう。（飯島千咲）

私は、知識も乏しいし、意見をうまく人に伝える事もできないけれど、私は日本が、「戦争をしない国」であってほしい。また、アメリカがこうするからこうする、ではなくて日本の意見で外交をして、武力に頼らないでほしい。また、憲法もごまかしの効くような曖昧な表記にせず、国民一人ひとりが理解できるものにしてほしい。そして、自衛軍というものができたとしても、自衛にかこつけて、罪のない人に銃が向けられることのない、日本という国に生まれたことを誇れるような憲法の下で、生きたい。（岡田美也子）

今の日本は、アメリカの下に立っていると思う。しかし、国が愛国心を要求する以上、アメリカがどうだ、ではなく、日本はどうするのかを考えてほしいと思う。また、もし日本に軍隊ができることになっても、それがいかなる大義名分であれ、先に攻撃をかけるようなものではないということを宣言していただきたい。また、それがどこかの国の兵と戦うという必要がないよう、外交を行っていただきたいと強く願う。（高柳祐真）

#### ④ アクションプラン

##### テーマ：知ること

＜現状・すべきことに選んだ理由＞

私たちは「日本は戦争をしない国であってほしい」という認識で一致した。戦争をしない日本であるために私たちはできることを考えた結果、「知ること」が一番に挙げた。戦争についての認識は国によって全く違い、過去の過ちを繰り返さないためにも過去を知るというのは大切だと考えたからである。

##### ◎ 私が知るために。

###### ○ 自分から知りに行く体制を学ぶ。

- ・まとめられた情報(メディアなど)は放っておいても耳に入ってくるけど偏ってしまう。  
→できるだけ生のものを自分から聞きに行く。(戦争体験者は少なくなりつつある)
- ・自分から行けば自然と意見が生まれてくるし、理解も深い。  
(⇒自衛隊の駐留地に行ってみる)

##### ◎ みんなが知るために

###### ○ 学校の友達や家族など身近な人と話す。(=お互いの意識を高める)

- ☆「友だちは興味もってなさそう」、「変に思われそう」、「『〇〇はすごいねー』で次の話は続かないし、言い出す勇気が出ない。
- ・こうした話はタブー視されている感じがある。
- ・中学生時代は特に「変だ」というイメージがあって、話せる空気ではない。⇔でも、中学生の頃に知ることは心に残る。

↓

###### ○ 学校側で話す機会を作ってあげる

###### ○ 子ども国会のような学校という枠以外の話しあう機会を作る。広告も出す。

- ・地方にはなかなか話をできる場所がない。
- ・学校も良いけれど、学校は閉鎖的。いろいろな人に出会うためには、学外の活動も大事。

知るべきことは…

- ・戦争がどのようなものか
- ・中国等の日本に対する意識
- ・中国と日本・日本と米国(被害国と加害国)の認識の差

## 分科会：貧困問題

参加者名：石丸葵、伊奈川玲美、小川珠奈、西郷和将、外山知里、原口華奈、吉永涼、Y.T

### ① 現実

- ・ 食料が十分でなく、栄養の知識がないため、栄養不良で亡くなっている。
- ・ 3秒に1人が亡くなっている。
- ・ 井戸の設備が整っていない為、キレイな水が飲めない。⇒病気の発生。
- ・ 安い賃金で働かされている。
- ・ 支援金が兵器に使われている。
- ・ 児童労働、住む家がないストリートチルドレン。  
⇒貧困から抜け出せないサイクルになっている。

### ② 理想

- ・ 自分もっている現実、家族と暮らせる場、施設等をつくる。
- ・ 基礎労力の向上。
- ・ 先進国が支援することが大切。
- ・ みんなが「知ること」が大切。
- ・ 途上国と先進国の両者の意識が大切。
- ・ 支援金を軍事費に使わない。
- ・ 格差や偏見をなくす。
- ・ 衛生面を整える(トイレなど)。
- ・ 途上国が先進国の踏み台にされている現状の改善。

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 教育を子どものときからするのは大切。
- ・ 教師として研修を開き、子どもに教える。
- ・ 技術学校を増やす。
- ・ 人を派遣するなど、日本が提供できるものは提供する。
- ・ 途上国の学校づくりをする。
- ・ 先進国の小学校は貧困問題を少しずつ授業に取り入れていく。
- ・ 知識が使えていない、教育から変えていく。
- ・ 子どもが労働しながら勉強をする場をつくる。
- ・ 人々が貧困から抜け出せないようなサイクルを止める。

#### (2) 自分たちにできること

- ・ スタディーツアーや企業施設見学、セミナーへの参加等を通して途上国への理解を深める。
- ・ 正しい知識を身につけた上での視点をもって貧困問題に取り組む。
- ・ 募金活動など学校を通して行える活動から参加し、また自ら率先して働きかける。

## 子ども議員の声

私はたまたま見た貧困のビデオに衝撃を受け、自分にはできないことがないか、同年代の苦しんでいる子どもを助けたいと思い、NGO の活動を始めた。この私の経験を踏まえ貧困問題、世界の問題を解決するには“知ること”が最も大切だと思う。より多くの人々が貧困問題を知り、解決の糸口を見出してくれればと感じた。（吉永涼）

私は第2回子ども国会に衝撃を受けて、それをきっかけにユニセフ子どもネットワークャーになった。今はセミナーの司会をしたり、自分で卒論のテーマを選んで調べている。いろんな壁にぶち当たるけれど、この道に入って良かったと、活動している私が好きだと感じている。世界のためにこれから、子どもとして頑張っていきたい。（石丸葵）

日本では受験戦争で貧困について考える時間がない。もっと考える授業、機会をとってほしい。（エッセイとか書かせるとか。）貧困問題は食物の有り余る日本では想像しづらいけれど、今の日本の若者にできることは、知って考えることである。“考える”重要性を教育の中で見直すべきだ。（小川珠奈）

私は、第2回子ども国会がきっかけで、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンという NPO を知り、そこで活動し始めた。同年代の子どもが様々な理由によりチャンス(学歴、識字、社会的経験など)を失くしかけていることを知り、自分にできることは何か？を考えている。友達にはそんな活動をしていると「特別」と思われがちだが、私たちには、“現実”→“関心”→“興味”に目を向ける教育が必要である。（原口華奈）

学校関係でネパールに行った。その時、ストリートチルドレンの子どもたちと接してみて夢を持っている純粋な子どもであることがわかった。バスで移動中に、争っている集団がいたりして、貧困問題について考えるようになった。（西郷和将）

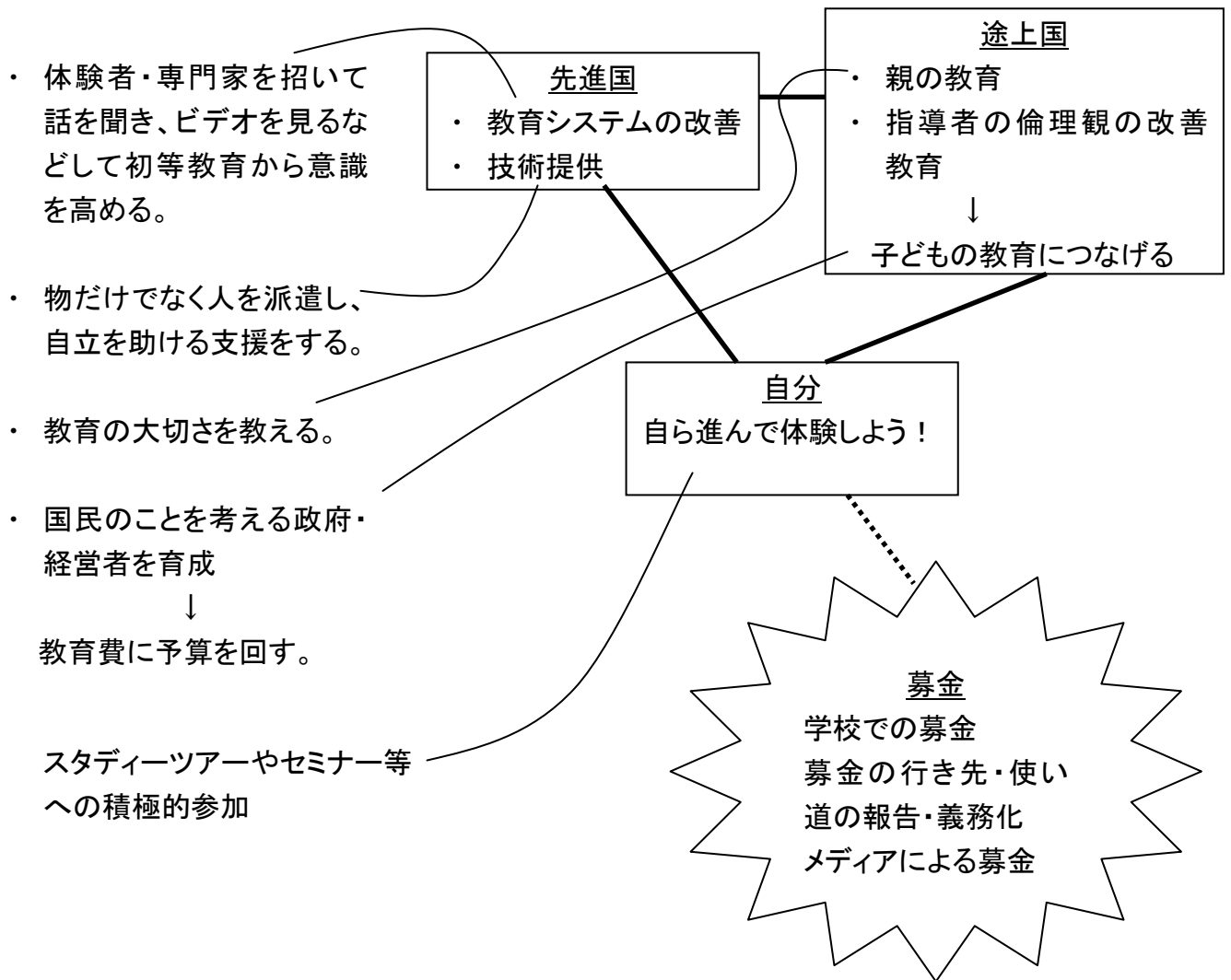
今回、子ども国会に参加して、みんなすごく貧困問題に詳しく、色々な活動にも参加していて、良い刺激を受けた。政府にしてもらおうこともあるけれど、自分たちにも出来ることがたくさんあることに改めて気付かされた。今回の体験を活かしていきたいと思うので、政府の人たちも私たちの意見を政治に反映させてほしい。（伊奈川玲美）

私は初めて子ども国会に参加したのですが、意識の高まった仲間と貧困問題について語ることができ、自分も向上できた。私たちも一生懸命意見をまとめたので、政治で働いている人に少しでも分かってもらえたら、幸いである。（外山知里）

私は、今年初めて子ども国会に参加したのですが、自分もっていない貴重な意見を聞くことができ、新たな考えも、もつことができた。少ない時間をみんなで協力して、一生懸命意見をまとめたので、少しでも、政治で働いている人に分かってもらいたい。（Y.T）

#### ④ アクションプラン

テーマ: 教育から貧困をなくす



貧困問題はこれまでも様々な取り組みが試みられてきたにも関わらず、現在も解決できないまま続いている難しい問題である。私たちはこれが単に経済的な面に止まらず、途上国でみられるあらゆる非人間的な現実を結びついていると考えた。

人々を貧困から解放するために先進国側から、途上国側から、また自分たちとして何が出来るか、まずは“知る事”をテーマに教育から考えていくこと、“教育から貧困もなくす”ことを訴えたいと思う。

## 分科会：エリート教育ってどうなの？

参加者名：天田陽子、小島大樹、小森千穂、紺野雅子、田島恵菜、疋田祥世、密田清夏、森麻裕子、高木南、田中絢也、筑後孝夫、森玲奈

### ① 現実

- ・ 学歴によって差ができてしまっている。
- ・ お金がないと、勉強したくても良い教育が受けられない。
- ・ 習熟度別の授業があったり、先生が授業中に答えられる人しか指さないなど、差別がある。
- ・ ゆとり教育が格差を広げた。

### ② 理想

- ・ 誰もが自分のやりたい勉強をできる環境がある。
- ・ 公立のレベルを上げ、国には教育予算を増やしてほしい。また、義務教育期間をのばしてほしい。
- ・ それぞれの才能を見つけられるエリート教育を行ってほしい。

### ③ 改善案

#### (1) 政府にしてほしいこと

- ・ 学習面で、助っ人を呼んで、分かりやすい授業をしてほしい。  
→Team Teaching(教員を増やす)
- ・ 様々な人を呼んで、話を聞いたりする機会をたくさんつくってほしい。

#### (2) 自分たちにできること

- ・ 相手のことを知る。
- ・ 本をたくさん読む。
- ・ 自らの視野を広げ、意識を高める。(ex.子ども国会に参加する)



## 子ども議員の声

- ・ 収入によって選べる学校、予備校に限られる。(小島、疋田)  
→学力格差が生じる(疋田)
- ・ 先生が授業中頭の良い人を当て、わからない人は飛ばす。(森)
- ・ 頭の良い人は校則を破っても許される。(森)
- ・ 学校を休んでまで塾に行く人がいる。(密田)
- ・ 習熟度別のクラス分け。(小森)  
→出来る人と出来ない人とで教えてもらっていることが違う。(田島)
- ・ ゆとり教育により学力に差が生まれた。(小島)
- ・ AO入試の普及は学力だけではない証。(森)
- ・ ゆとり教育＝エリート教育、成績の良い人は優遇される。
- ・ 経済的な事情で良い大学を受けられない。(天田)
- ・ 家庭の環境が大きく影響する。  
→良い大学を卒業した親の子どもは良い大学へ行く。  
→経済的な理由もプラスされる。(疋田)
- ・ エリート教育＝一部の能力がある人を高めていく。(天田)
- ・ エリート教育＝英才教育  
→一部のみを取り出し、その人たちだけを伸ばす。(密田)  
→頭の良い人しか受けられない。(田島)  
→授業についていけなくなる。(森)

### 以下、全員の意見

- ・ 成績が良いのがエリート
- ・ 頭が良い→チャンスが増える
- ・ エリート→勉強以外は何も出来ない
- ・ 良い大学→高収入→子どもにも良い教育→高収入…

#### ④ アクションプラン

テーマ：授業で色々な人の話を聞きたい

エリートを育てるために勉強面での育成は十分、あとは「考える力」を育み社会を見る視野を広げる必要がある。  
心の教育

- ・ 政治家や著名人だけではなく、企業や地域の人々等、様々な社会的地位の人から話を聞く機会を、学校の授業内で持てるように、文部科学省は、そのような制度をできるだけ早く設置する。
- ・ その後、聞いた事に基づいて、子どもたち自身がディスカッションの場を持つことが「考える力」を養うことができる。
- ・ 様々な人の話を聞く機会を持たせる制度の具体例として、学校で人を呼ぶのには限度があるので、国が上記のような人を集め、全国の学校に派遣するような政策を入れるといったこと。
- ・ 本当のエリートとは、勉強だけではなく、様々な人と同じ目線で物事を見つめ、自分の部下等を持ち上げる人のことだから、教育の中で教養を身につけ道徳心を養う機会が大切なので、「様々な人の話を聞く」ということを授業の中で取り入れさせるという法案を求めたい。

わたしたちは、以上の意見を実現させるため、力を合わせて活動することを誓います。また、この宣言書を読んで下さったあなたがわたしたちの意見に賛同し、その実現のために活動していただけることを願います。子どもから大人まですべての人々が共に協力し、世界の貧困問題や戦争から身近な教育問題まで多くの課題を解決できる社会をつくるため、自分にできることから積極的に行動していきましょう。

わたしたちは、責任を持ってこの宣言書に署名します。  
子どもの意見が社会に反映されることを願って。

2006年8月21日 第3回子ども国会 参加者一同